

原 著

母親の子育て不安と母親の就労形態との関連性に関する研究

八重樫牧子*¹ 小河孝則*¹

要 約

都市化や核家族化及び少子化の進行に伴い、子育て不安を訴える母親や育児ノイローゼに陥る母親が増えてきている。また、今後、女性の社会進出が増大し、様々な母親の働き方が想定できる。したがって、母親の就労形態別に子育て不安について検討する必要がある。

そこで本研究では、母親の就労形態が母親の子育て不安にどのように影響を及ぼしているのかということについて検討を行った。保育園や幼稚園に子どもを通わせている729名の母親を対象に留置き法による調査を実施した。専業主婦、常勤および非常勤別に子育て不安得点と子育て不安構造を比較検討し、さらに、子育て不安に影響を与えられる要因と母親の就労形態との関連性について検討した結果、以下のことが明らかになった。

1. 子育て不安得点は非常勤が最も高く、次いで専業主婦、常勤の順に低くなっていた。しかし、統計的な有意差は認められなかった。
2. 29の子育て不安項目中、4項目については就労形態間に有意差が認められた。
3. 就労形態別に子育て不安の因子分析を行った結果、就労している母親の子育て不安構造と、就労していない専業主婦の不安構造が異なっていることが明らかになった。
4. 常勤と専業主婦は「子育て責任重圧感」が高いこと、非常勤と常勤は「ゆとりのないあせり感」が高いこと、また、非常勤は「不安・抑うつ感」が高いことが明らかになった。
5. 専業主婦、常勤および非常勤別に子育て不安と関連性のある子育て不安要因を見出すことができた。

はじめに

都市化や核家族化及び少子化の進行に伴い、子どもを取り巻く家庭や地域社会が著しく変化した。その結果、家庭や地域社会における子育て状況も変わりつつある。小さい子どもとの接触体験が乏しいまま親になる男女が増えてきている。その結果、若い親たちは子育てに関する知識や技術が不十分なまま子育てをしなければならない場合が多くなってきている。また、地域でのつながりが希薄になり、親同士が子育て情報を交換し、助け合う機会も少なくなっている。さらに母親が一人で子育てに専念するのが一般化し、子育ての責任が母親に集中しがちである。一方、女性の社会進出が進む中で、働く母親に仕事・家事・子育てという過重な負担がかかっている。

このような状況の中で、子育て不安を訴える母親や育児ノイローゼに陥る母親が増えてきている。母親が子育てに不安やストレスを感じながら子どもに接することは、子どもの心身の発達に好ましくない。ま

た母親が児童虐待に至るという事態も起こり得る¹⁾。

母親の子育て不安や子育て負担を軽減するためには、父親が子育てに参画することが必要である。また、できる限り多くの人が子育てにかかわり、単眼的な子育てから複眼的な子育てを行うことが必要になってくる。そこで、児童相談所などの相談機関や地域子育て支援センターなどの積極的な子育て支援活動を活用することや、親同士が子育て支援ネットワークをつくり子育てグループ・サークルに参加することが求められている。

子育て不安については、乳幼児をもつ母親を対象に調査が実施されており、育児不安に関する検討がなされている。牧野²⁾は、育児不安とは「育児行為のなかで一時的あるいは瞬間的に生じる疑問や心配ではなく、持続し蓄積された不安」であると定義している。しかし、庄司³⁾が指摘しているように育児不安の意味するところは研究者によってかなり違いがみられる。これまでの育児不安に関する調査研究は、育児不安本態に関する研究⁴⁻⁶⁾、育児不安に関連する社会的心理的要因に関する研究⁷⁻²⁷⁾、育児不安が子ど

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先)八重樫牧子 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

もに与える影響に関する研究^{28,29)}そして育児不安尺度作成に関する研究³⁰⁻³⁵⁾が主たるものである。

筆者ら^{26,27)}も母親クラブに参加している母親を対象に、子育て不安の程度と母親クラブ活動との関連性について研究を行った。その結果、父親の精神的支えが多いほど子育て不安が少ないこと、そして母親クラブ活動に満足している母親ほど子育て不安が少ないことを実証することができた。また、母親クラブに参加している母親の年齢層は幅が広いことから、0-6歳の乳幼児をもつ母親の育児不安だけではなく、7-12歳や13-18歳の子どもをもつ母親の子育て不安についても研究を行った。その結果、子どもの年齢階層の高い方が子育て不安平均得点が高く、子育て困難感や身体的・心理的ストレスが増大することが明らかになった。しかし、母親クラブの母親の59.9%が専業主婦であり、常勤の母親はわずか8.0%であったことから、母親の就労形態別に子育て不安について検討することができなかった。

母親の就労形態と育児不安の関係については、平成9年度の国民生活選好度調査³⁶⁾において、専業主婦の方が有職者より子育て中に感じる不安感が大きいことが示されている。牧野⁸⁾は、専業主婦と有職者との育児不安を検討し、育児不安の内容が異なることを指摘している。しかし、いずれも母親が就労しているかどうかという点から子育て不安を検討したものであり、就労形態別に検討されているわけではない。一方、谷口¹⁴⁾は就労にあたっての精神的なストレスと育児不安との間に一定の関連が認められることを明らかにしている。また、パートタイムより常勤で就労している母親の育児不安が低いことを指摘している。

今後、女性の社会進出が増大し、様々な母親の働き方が想定できる。また、子育てに関する需要も多様になることが予測される。したがって、このような多様な需要に対応したきめ細かな子育て支援が求められる。そこで本研究では、今後の子育て支援の方向性を明らかにするために、母親の就労形態が母親の子育て不安にどのように影響を及ぼしているのかということについて検討する。特に本稿では専業主婦、常勤および非常勤別に、子育て不安の程度や子育て不安の構成要素を比較検討する。さらに、子育て不安に影響を与えると思われる要因と母親の就労形態との関連性について検討を行うことを目的とした。

なお、子どもの年齢と母親の子育て不安との関連性については、別稿³⁷⁾で検討を行った。

研究方法

本稿では第1子が乳幼児の母親だけを対象にするのではなく、第1子が小学生や中学生を持つ母親も

対象としている。育児は主として乳幼児の子育てを表す用語あり、育児不安と言う場合は乳幼児を持つ母親だけを限定して用いられる場合が多い。したがって、ここでは小学生や中学生の子育ても視野に入れて考えていきたいので、育児不安を含む子育て不安という用語を使用することとした。

1. 調査対象と方法

平成13年6月中旬から7月中旬にかけて、O市(O県)の保育所13ヶ所・幼稚園2ヶ所、E市(S県)の保育所1ヶ所・幼稚園1ヶ所の計17ヶ所において調査を実施した。これらの保育所および幼稚園に子ども(0-6歳)を通わせている母親を対象に、自記式調査用紙を配布し、留置き調査を行った。各保育所および幼稚園の担任職員を通して、自記式調査用紙と返送用封筒を母親に配布した。後日、個別に封筒に入れた調査用紙を各保育所および幼稚園に届けてもらうことによって回収した。

調査用紙の配布数は1,585人、回収数は765人で回収率は48.3%であった。さらに、調査用紙を点検した結果、有効回答数は729人で有効回答率は46.0%であった。

2. 調査内容

調査内容は、以下の6点である。①母親・家族の概要(母親の年齢、父親の年齢、子どもの年齢、子どもの人数、家族の人数、母親の就労形態、母親が子どもの時の母親の就労形態、母親の最終学歴、家族形態、祖父母との距離、居住年数および居住形態)、②子育て環境(近所とのつきあい、友人とのつきあい、夫の子育て参加状況、子育て困難時の相談相手、子育て知識・情報源及び子育てサークル・グループの参加状況)、③子育て観(3歳児神話に対する考え方、性別役割分業意識及び子育て協働意識)、④子育て不安(川井・庄司ら⁵⁾による29の育児不安項目)であった。

3. 分析方法

統計処理はSPSS WINDOWS版 Ver.9を使用した。

母親の属性や子育て環境および子育て観と、母親の就労形態(専業主婦、常勤、非常勤)の分割表を作成しカイ2乗検定を行うことにより、その関連性を検討した。

29の子育て不安項目のいずれかに答えていなかった37人を除いた692人について、母親の子育て不安を検討した。子育て不安項目の選択肢の「よくある」に3点、「時々ある」に2点、「あまりない」に1点、「全くない」に0点を付与した。各項目の平均値とSDを求め、子育て不安得点を算出した。ただし、付与した点数が逆転する項目については得点を再計算し、項目にRを付加した。

母親の就労形態別に算出した子育て不安得点の間に差があるかどうか検討するために、専業主婦、常勤、非常勤および自営業の4群の子育て不安平均得点について一元配置分散分析を行った。さらに各就労形態の子育て不安平均得点についてもLSDテストによる多重比較検定を行った。

母親の就労形態別にみた母親の子育て不安の構成要素を明確にするために、専業主婦217人、常勤196人および非常勤191人の3群各々における29の子育て不安項目について、因子分析(主因子法:バリマック回転)を行い、因子の検討を行った。自営業については対象数が58名と少なかったため因子分析は行わなかった。

子育て不安の程度と子育て環境等との関連性を検討するために、いずれかの子育て不安項目に答えていなかった37人を除いた692人の母親を、子育て不安の高い群と中間群および低い群の3群に分類した。3群を分類するにあたっては、692人の母親について、29の子育て不安得点を加算し、その合計得点の平均値+1標準偏差得点以上の母親を高い群、平均値-1標準偏差得点以下の母親を低い群、平均値+1標準偏差得点より低く平均値-1標準偏差得点より高い母親を中間群とした。3群の子育て不安程度と母親の属性や子育て環境および子育て観に関する項目について分割表を作成し、カイ2乗検定を行うことにより関連性を検討した。さらに、母親の就労形態別に上記と同様に3群の子育て不安程度と母親の属性や子育て環境および子育て観に関する項目について分割表を作成し、カイ2乗検定を行うことにより関連性を検討した。ただし、自営業は人数が少なかったために、分割表集計の対象とはしなかった。

研究結果

1. 対象について

1-1 母親・父親・子どもの年齢

調査対象の属性については表1の通りである。

母親の年齢は30-34歳が42.9%と最も多かった。母親の平均年齢は33.2歳で標準偏差は4.4であった。夫の年齢は35-39歳が36.1%と最も多かった。父親の平均年齢は35.9歳で標準偏差は5.6であった。第1子の子どもの年齢は6歳以下が68.3%で最も多かった。第1子の平均年齢は5.7歳で標準偏差は2.9であった。

表2に示したように母親の年齢階層および父親の年齢階層と母親の就労形態はいずれも0.1%以下の危険率で有意差が認められた。図1からわかるように20歳代の母親は非常勤が多く、専業主婦が少ないのに対して、40歳代の母親は専業主婦が多く、非常勤の母親は少なくなっていた。また、父親の年齢階層との関連性についても、図2からわかるように父親の年齢が高くなるほど非常勤の母親が少なくなり、専業主婦が多くなっていた。

1-2 母親の就労形態について

母親の就労形態は、表1に示した。専業主婦32.0%、常勤勤務27.9%、非常勤勤務28.1%とほぼ同数であった。また、保育所と幼稚園の施設別に母親の就労形態を示すと図3のようになった。幼稚園では専業主婦が80.3%を占めていた。保育所では、専業主婦は5.8%と少なく、常勤が41.8%、非常勤が37.3%であった。

母親が子どもの時の母親の就労状況は、専業主婦(一貫して専業主婦)が24.7%、常勤(中断後常

表1 対象について

年齢	母親	平均年齢=33.2歳、標準偏差=4.4、20-24歳:11人(1.5%)、25-29歳:140人(19.2%)、30~34歳:42.9%、30-34歳:313人(42.9%)、35-39歳:205人(28.1%)、40歳以上:60人(8.2%)
	父親	平均年齢=35.9歳、標準偏差=5.6、20-24歳:5人(0.8%)、25-29歳:73人(11.3%)、30-34歳:201人(31.3%)、35-39歳:233人(36.1%)、40-44歳:124人(19.2%)、45歳以上:10人(1.5%)
	第1子	平均年齢=5.7歳、標準偏差=2.9、0-6歳:498人(68.3%)、6-12歳:205人(28.1%)、13-15歳:26人(3.6%)
子どもの人数	平均人数=2.0人、標準偏差=0.8、1人:199人(27.3%)、2人:355人(48.7%)、3人:151人(20.7%)、4人以上:23人(3.1%)	
家族の人数	平均人数=4.3人、標準偏差=1.2、2人:9人(1.2%)、3人:163人(22.4%)、4人:286人(39.3%)、5人:153人(21.0%)、6人:72人(9.9%)、7人以上:44人(6.1%)	
母親の就労形態	専業主婦:231人(32.0%)、常勤:202人(27.9%)、非常勤:203人(28.1%)、自営業:61人(8.4%)、その他:26人(3.6%)	
母親が子どものときの母親の就労形態	専業主婦:177人(24.7%)、常勤(中断後復帰含む):271人(37.8%)、非常勤(中断後復帰含む):167人(23.3%)	
母親の最終学歴	中・高卒:223人(30.7%)、専門学校卒:133人(18.3%)、短大卒:193人(26.5%)、4年制大卒:169人(23.2%)、その他:9人(1.3%)	
家族形態	核家族:520人(76.1%)、3世代家族:99人(14.5%)、ひとり親家族:22人(3.2%)、ひとり親3世代家族:12人(1.8%)、その他:30人(4.4%)	
祖父母との距離	父方	同一敷地内:136人(19.9%)、歩いて行ける距離:75人(11.0%)、車で30分:196人(28.7%)、日帰りができる:154人(22.5%)、日帰りができない:123人(18.0%)
	母方	同一敷地内:60人(8.4%)、歩いて行ける距離:74人(10.3%)、車で30分:290人(40.4%)、日帰りができる:168人(23.4%)、日帰りができない:125人(17.4%)
居住年数	1年未満:83人(11.6%)、1-2年:156人(21.8%)、3-4年:170人(23.8%)、5-9年:224人(31.4%)、10年以上:81人(11.4%)	
住居形態	一戸建て住宅:417人(57.4%)、集合住宅:309人(42.6%)	

表2 母親の属性と就労形態の関連性

属性	人数	漸近有意確率	有意差	備考
母親の年齢階層	723	0.000	***	20歳代: 専<常<非
父親の年齢階層	641	0.000	***	20歳代: 専<常<非
子どもの年齢階層	686	0.086	ns	
子どもの人数	723	0.104	ns	
家族の人数	721	0.017	*	常<非<専
母親が子どもの時の母親の就労形態	711	0.000	***	母親専業主婦→専業主婦: 非<常<専
母親の最終学歴	721	0.000	***	中高卒: 専=常<非, 4年生大: 非<常<専
家族形態	677	0.001	**	核家族: 非<常<専
父方祖父母との距離	678	0.000	***	遠距離: 常<非<専
母方祖父母との距離	711	0.000	***	遠距離: 常<非<専
居住年数	720	0.219	ns	
居住形態	720	0.000	***	一戸建: 専<非<常

注1) ***: $P < 0.001$ で有意差あり, **: $P < 0.01$ で有意差あり, * $P < 0.05$ で有意差あり, ns: 有意差なし
 注2) 母親の年齢階層: ①20-24歳, ②25-29歳, ③30-34歳, ④35-39歳, ⑤40-44歳, ⑥45歳以上
 注3) 父親の年齢階層: ①20-24歳, ②25-29歳, ③30-34歳, ④35-39歳, ⑤40-44歳, ⑥45-49歳, ⑦50歳以上
 注4) 子どもの年齢階層: ①0-6歳, ②7-12歳, ③13-15歳
 注5) 居住年数: ①1年未満, ②1-3年未満, ③3-5年未満, ④5-10年未満, ⑤10-20年未満, ⑥20年以上
 注6) 備考: 専は専業主婦の略, 常は常勤の略, 非は非常勤の略

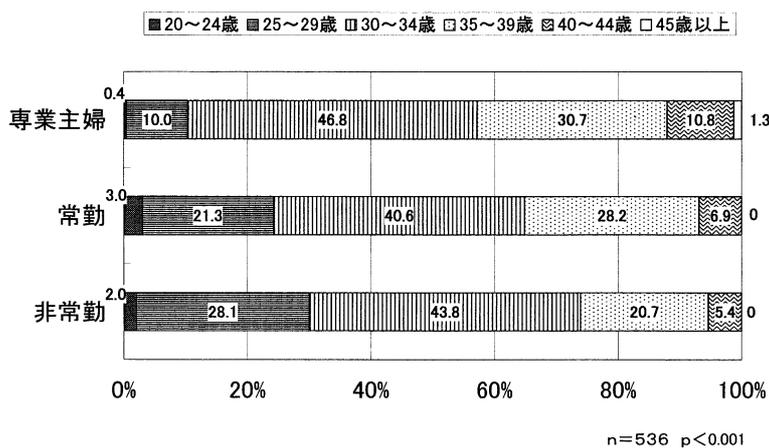


図1 母親の年齢と就労形態

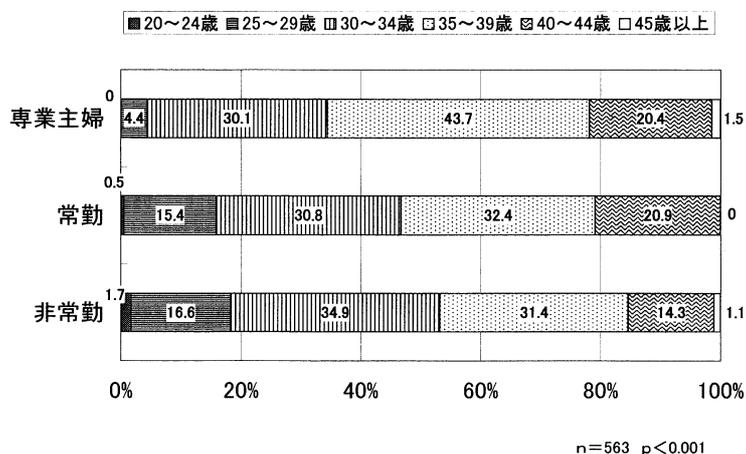


図2 父親の年齢と就労形態

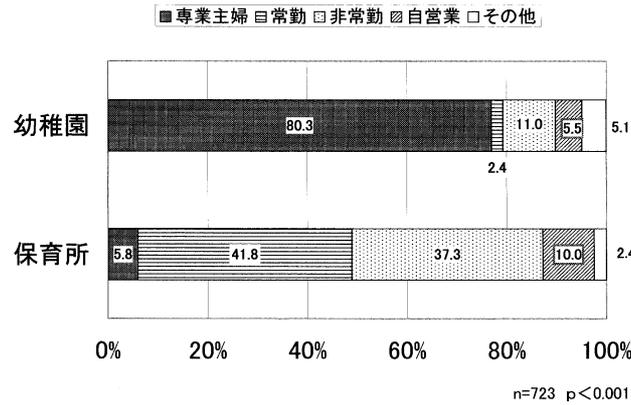


図3 施設別就労形態

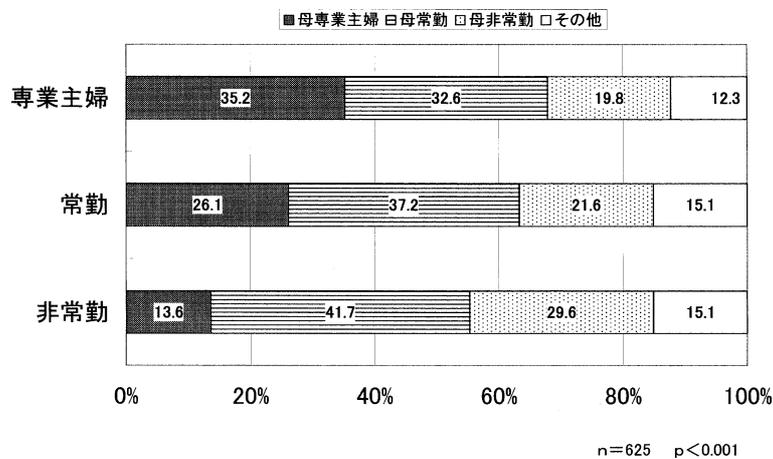


図4 母親の就労形態と就労形態

勤復帰も含む)が37.8%，非常勤(中断後パート復帰も含む)が28.1%であった。図4に示したように、母親が子どもの時に母親が専業主婦であった割合は、専業主婦の場合は35.2%と最も高く、常勤の場合は26.1%，非常勤の場合は13.6%と低くなっており、0.1%以下の危険率で有意差が認められた。

母親の最終学歴は中・高卒が30.7%と最も多く、次いで短大卒26.5%，4年制大学23.2%であった。就労形態との関連性については、0.1%以下の危険率で有意差が認められた。非常勤の場合は中高卒の占める割合が48.8%と高くなっていた。また、専業主婦の場合は他と比して4年生大卒の占める割合が35.7%と高くなっていた。

1-3家族形態について

家族形態については、表1に示した。核家族が76.1%と最も多く、3世代家族は14.5%であった。家族形態と就労形態との関連性については、1%以下の危険率で有意差が認められた。核家族の占める割

合は、専業主婦が86.6%と最も高く、次いで常勤の73.4%，そして非常勤は69.3%となっていた。

祖父母との距離は、父方祖父母，母方祖父母とも車で30分くらいの家族が多かったが、父方祖父母の場合は同一敷地内に居住している家族が19.9%と母方祖父母より多くなっていた。就労形態との関連性については、父方祖父母，母方祖父母とも0.1%以下の危険率で有意差があった。専業主婦の場合は、他の就労形態と比べて日帰りできない距離の割合が高くなっていた。また、父方祖父母との距離については、常勤の場合は他の就労形態と比して、同一敷地内に居住している割合が高くなっていた。

居住年数は、5-9年が31.4%と最も多く、次いで3-4年が23.8%，1-2年が21.8%そして1年未満は11.6%であった。住居形態は一戸建て住宅が57.4%，集合住宅が42.6%とやや前者が多くなっていた。居住年数と就労形態との関連性はなかったが、居住形態については0.1%以下の危険率で有意差が認められた。一戸建て住宅に住んでいる割合は、常勤

が70.4%と最も高く、非常勤は58.4%さらに専業主婦は41.3%と低くなっていた。

子どもの人数は2人が最も多く48.7%を占めていた。家族の人数は4人が39.3%を占めていた。子どもの人数と就労形態との間には関連性は認められなかった。しかし、家族人数については5%以下の危険率で有意差が認められた。4人家族については、専業主婦の占める割合が36.1%と最も高く、次いで非常勤の28.8%、常勤の22.5%であった。

2. 子育て環境

2-1 近所や友人とつきあい

表3からわかるように、近所とのつきあいが「よ

くある」「時々ある」と答えた母親は77.7%であった。また、友人とのつきあいについて「よくある」「時々ある」と答えた母親は90.5%であった。

母親の就労形態との関連性については、近所づきあいについては1%以下の危険率で、友人づきあいについては5%以下の危険率で有意差が認められた。近所づきあいが「よくある」「時々ある」と答えた母親については、専業主婦が83.5%と最も高く、次いで非常勤の78.3.1%、さらに常勤の69.3%であった。友人づきあいが「よくある」「時々ある」と答えた母親については専業主婦が93.1%と最も高く、次いで常勤の87.6%、非常勤の85.2%であった。

表3 母親の子育て環境と就労形態の関連性

子育て環境	全体人数	全体 比率	就労形態			漸近有意 確立	有意差
			専業主婦	常勤	非常勤		
近所とのつきあい	723	77.7	83.5	69.3	78.3	0.002	**
友人とのつきあい	723	90.5	93.1	87.6	85.2	0.025	*
夫の子育て参加	723	89.5	90.9	89.6	85.3	0.032	*
夫の精神的支え	717	84.1	89.5	84.0	75.2	0.003	**
相談相手	723	78.0	85.3	77.2	69.5	0.003	*
夫	723	71.0	71.9	76.7	67.5	0.106	ns
自分の父母	723	29.2	26.4	32.7	25.6	0.064	ns
夫の父母	723	36.2	38.5	35.6	30.0	0.900	ns
自分のきょうだい	723	8.7	10.0	8.4	7.9	0.823	ns
夫のきょうだい	723	36.2	46.8	28.7	33.0	0.002	**
近所の人・知人	723	68.6	73.2	64.9	66.0	0.192	ns
友人	723	4.0	1.3	7.4	3.4	0.012	*
専門機関	723	10.8	8.2	11.9	11.3	0.574	ns
かかりつけの医者	723	48.0	41.6	53.5	45.8	0.041	*
保育園・学校等の先生	723	1.1	0.4	1.5	0.4	0.175	ns
いない	723	24.6	26.8	23.3	20.7	0.321	ns
情報源	723	59.3	58.9	64.9	56.7	0.381	ns
夫	723	28.5	24.2	33.2	25.6	0.176	ns
自分の父母	723	28.8	32.9	29.7	22.7	0.032	*
自分のきょうだい	723	10.1	11.7	9.4	7.4	0.433	ns
夫のきょうだい	723	44.5	52.8	38.1	40.9	0.025	*
近所の人・知人	723	64.6	68.0	59.9	63.1	0.226	ns
友人	723	6.4	4.8	6.9	7.9	0.703	ns
専門機関	723	14.4	14.3	14.9	14.8	0.989	ns
かかりつけの医者	723	52.7	41.1	63.9	55.2	0.000	** *
保育園・学校等の先生	723	48.8	52.4	48.5	44.8	0.478	ns
育児書	723	36.1	40.3	30.7	36.9	0.189	ns
テレビ等	723	7.7	10.0	2.0	7.9	0.000	** *
子育てサークル	723	6.1	11.3	1.0	5.4	0.000	** *
親子クラブ	723	1.1	1.3	0.0	2.0	0.185	ns
児童館等	723	5.5	10.8	2.5	3.9	0.001	**
母親クラブ	723	12.3	13.0	12.9	11.8	0.967	ns
子育て広場	723	3.7	5.2	4.0	3.0	0.479	ns
地域の子ども活動	723	2.8	5.2	1.0	1.5	0.065	ns
子ども劇場	723	64.6	56.3	75.7	63.1	0.001	**
地域子育て支援センターのサークル	723	64.6	56.3	75.7	63.1	0.001	**
参加していない	723	15.0	15.7	14.3	16.2	0.289	ns
子育て不安	686	15.0	15.7	14.3	16.2	0.289	ns

注1) *** $P < 0.001$ で有意差あり, ** $P < 0.01$ で有意差あり, * $P < 0.05$ で有意差あり, ns有意差なし

注2) 近所とのつきあい, 友人とのつきあい, 夫の子育て参加, 夫の精神的支えについては「よくある」「時々ある」と答えた人の比率(%)

注3) 相談相手, 情報源, 子育てサークルについては有りと答えた人の比率(%)

注4) 子育て不安については子育て不安の高い群の比率(%)

2-2夫の子育て参加や精神的支え

表3に示したように、夫の子育て参加については「よくある」「時々ある」と答えた母親は89.5%であった。また、夫の精神的支えについては「よくある」「時々ある」と答えた母親は84.1%であった。

母親の就労形態との関連性については、夫の子育て参加については5%以下の危険率で、また夫の精神的支えについては1%以下の危険率で有意差が認められた。夫の子育て参加が「よくある」「時々ある」と答えた母親は専業主婦が90.9%と最も高く、次いで常勤の89.6%、非常勤の85.3%であった。夫の精神的支えが「よくある」「時々ある」と答えた母親についても、専業主婦が89.5%と最も高く、次いで常勤の84.0%そして非常勤の75.2%であった。

2-3子育ての相談相手

子育てに困った時の相談相手については、図5に示した。相談相手は配偶者(夫)が78.0%と最も高く、次いで自分の父母71.0%、友人の68.6%であった。

表3にも示したが、特に専業主婦の場合は85.3%が夫を相談相手としてあげており、常勤の77.2%、そして非常勤の69.5%と比べるとその割合が高く、5%の危険率で有意差が認められた。近所の人・知人を相談相手とあげている母親についても、専業主婦が46.8%と最も高かった。次いで非常勤の33.0%そして常勤の28.7%であり、1%の危険率で有意差が認められた。

また、幼稚園や保育所の先生を相談相手としてあげている母親は48.0%で必ずしも多くはなかったが、就労形態別にみると5%以下の危険率で有意差が認められた。母親が常勤の場合は53.5%と高く、次いで非常勤の45.8%そして専業主婦の41.6%となっていた。

一方、専門機関に相談する母親は4.0%と最も少なく

なっていた。しかし就労形態別にみると5%以下の危険率で有意差が認められた。母親が常勤の場合は7.4%、非常勤の場合は3.4%が専門機関を相談相手としてあげていたが、専業主婦はわずか1.3%と少なかった。

2-4子育ての知識・情報源

子育ての知識・情報源としては、図6に示した。子育ての知識や情報源は友人が64.6%と最も多く、次いで自分の父母59.3%、保育所・幼稚園等の先生52.7%の順に多くなっていた。専門機関は6.4%と最も少なかった。

特に保育所・幼稚園等の先生を情報源とする場合については、母親の就労形態間に0.1%以下の危険率で有意差が認められた。母親が常勤の場合は63.9%が保育所・幼稚園の先生を情報源にしており、専業主婦の41.1%と比較して明らかに高かった。

近所の人・知人を情報源とする母親は44.5%であったが、就労形態別にみると5%の危険率で有意差が認められた。専業主婦が52.8%と最も高く、次いで非常勤の40.9%、そして常勤は38.1%と低かった。また、自分のきょうだいを情報源とする母親についても、就労形態別にみると5%の危険率で有意差が認められた。専業主婦は36.5%と最も高く、次いで常勤の28.8%、そして非常勤の22.1%であった。

2-5子育てサークル・グループ活動

表3に示したが、子育てサークル・グループ活動については、64.6%の母親が参加していなかった。特に常勤の母親の75.7%が参加していなかった。次いで非常勤の63.1%であった。専業主婦の56.3%が参加していなかったが、43.7%と約半数弱は子育てサークル・グループに参加していることが明らかに

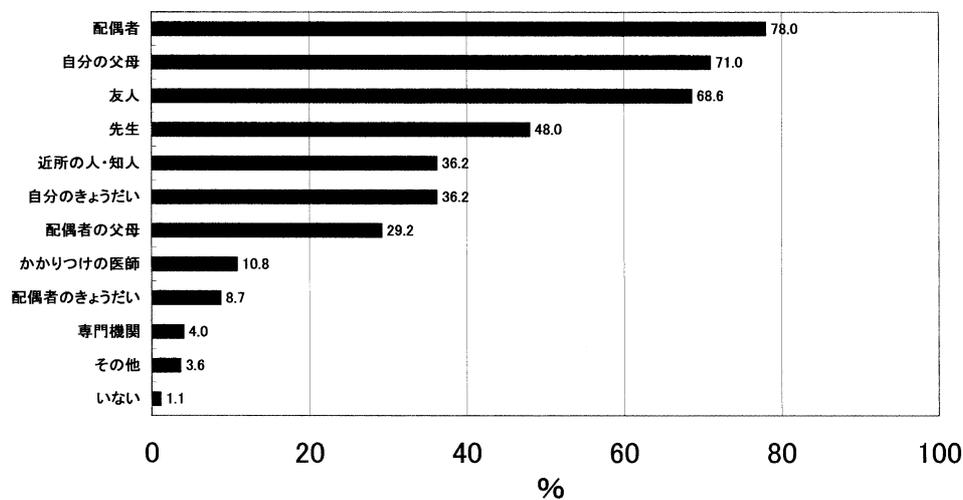


図5 子育ての相談相手

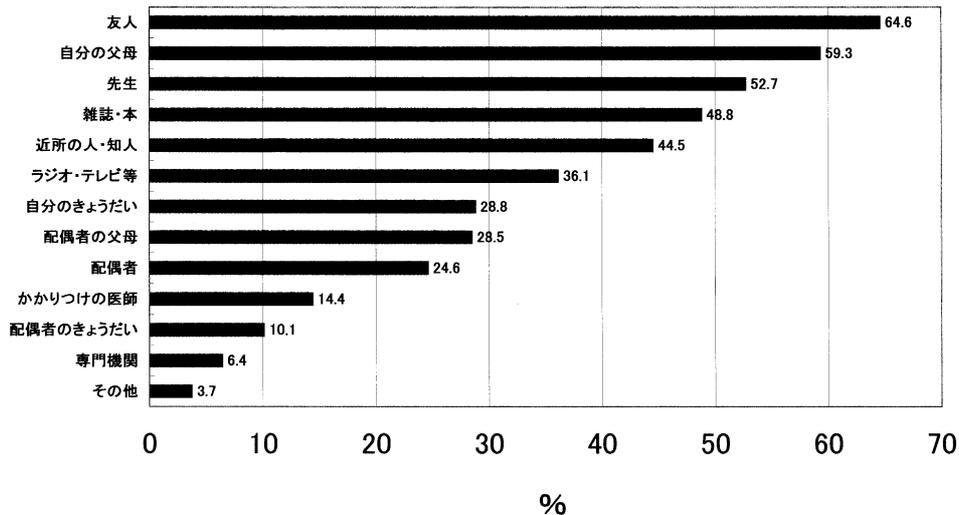


図6 子育て知識・情報源

なった。就労形態間では1%以下の危険率で有意差が認められた。

参加している子育てサークル・グループ活動を見ると、地域の子ども活動に参加している母親が12.3%と多く、次に親子クラブが7.7%、児童館・児童センターの幼児クラブが6.1%、子育て広場が5.5%とほぼ同数であった。母親の就労形態別にみると、親子クラブと児童館・児童センターの幼児クラブに参加している母親については0.1%以下の危険率で有意差が認められた。また子育て広場についても5%以下の危険率で有意差が認められた。いずれも専業主婦が最も参加率が高く、次いで非常勤、そして常勤の参加率は低かった。

3. 子育て観

3-1 3歳児神話の考え方

表4に示したが、3歳児神話に「非常に同感する」「だいたい同感する」と答えた母親は61.9%であった。就労形態別にみると0.1%以下の危険率で有意差が認められた。「非常に同感する」「だいたい同感する」と答えた母親についてみると、専業主婦が80.0%と最も高く、次いで非常勤の55.2%、そして常勤の母親は43.8%と低かった。

3-2 性別役割分業意識

表4に示したように、性別役割分業に「非常に同感する」「だいたい同感する」母親は21.9%であった。78.1%の母親は性別役割分業に同感していなかった。性別役割分業意識についても就労形態別にみると0.1%以下の危険率で有意差が認められた。「非常に同感する」「だいたい同感する」と答えた母親を就労別にみると、専業主婦は36.9%と最も高く、次いで非常勤の16.3%、そして常勤の母親は8.9%と低かった。

勤の16.3%、そして常勤の母親は8.9%と低かった。

3-3 子育て夫婦協働意識

子育てに関する夫婦協働意識については「非常に同感する」は71.4%、「だいたい同感する」は27.4%で、98.3%の母親が同感していた。表4に示したように、就労形態別にみると5%の危険率で有意差が認められた。「非常に同感する」と答えた母親を就労別にみると、常勤の母親が80.6%と最も高く、次いで非常勤は68.3%、そして専業主婦は65.2%と低くなっていた。

4. 子育て不安

4-1 子育て不安得点の比較

4-1-1) 就労形態別にみた子育て不安平均得点

子育て不安得点合計の最大値は75.0点、最小値は5.0点、平均値は39.3点、標準偏差は11.3点で正規分布していた。

表5は、各項目の子育て不安平均得点を就労形態別に示したものである。各就労形態別の子育て不安平均得点の一元配置分散分析結果も示している。また、図7は29項目について就労形態別の子育て不安平均得点を表したものである。ただし、自営業は図式していない。

表5に示したように、子育て不安平均得点の最も高かった項目は「(27)イライラすることがある」(2.03点)。次いで「(2)子育てについていろいろ心配なことがある」(1.94点)であった。子育て不安平均得点の最も低かった項目は「(3R)子どもといっしょにいると楽しい」(0.29点)、次いで「(17R)とても幸せな気分で過ごしている」(0.79点)であった。

母親の就労形態別に全ての項目についての平均得

表4 母親の子育て観と就労形態の関連性

子育て観	人数	全体 比率	就労形態			漸近有 意確率	有意差
			専業主婦	常勤	非常勤		
3歳児神話の考え方	719	61.9	80.0	43.8	55.2	0.000	***
性別役割分業意識	722	21.9	36.9	8.9	20.8	0.000	***
子育てに対する夫婦協働意識	720	71.4	65.2	80.6	68.3	0.036	*

注1) ***: P<0.001で有意差あり, **: P<0.05で有意差あり, ns有意差なし
 注2) 3歳児神話の考え方, 性別役割分業意識については「非常勤に同感する」「だいたい同感する」と答えた人の比率(%)
 注3) 子育てに対する夫婦協働意識については「非常に同感する」と答えた人の比率(%)

表5 就労別子育て不安得点

項	目	全体 (n=729)	専業主婦 (n=217)	常勤 (n=196)	非常勤 (n=191)	自営業 (n=58)	有意確率	有意差
1	何となく子育てに自信がもてないように思う	1.61	1.62	1.60	1.65	1.55	0.867	ns
2	子育てについていろいろ心配なことがある	1.94	1.96	1.93	1.96	1.81	0.619	ns
3R	子どもといっしょにいると楽しい	0.29	0.34	0.25	0.30	0.24	0.131	ns
4	子どものことがわずらわしくてイライラする	1.66	1.72	1.57	1.70	1.62	0.192	ns
5	子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	1.48	1.46	1.47	1.54	1.36	0.300	ns
6R	子どもをうまく育てていると思う	1.33	1.28	1.38	1.32	1.43	0.267	ns
7	私ひとりで子どもを育てているのだと思う	0.93	1.00	0.72	1.13	0.74	0.000	***
8	子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	1.27	1.22	1.33	1.30	1.19	0.420	ns
9	子どもを育てることが負担に感じられる	1.06	1.09	1.01	1.14	0.93	0.245	ns
10	自分のやりたいことができなくてあせる	1.36	1.24	1.44	1.47	1.22	0.011	*
11	母親として不適格だと思う	1.49	1.44	1.45	1.59	1.41	0.283	ns
12	育児ノイローゼに共感できる	1.74	1.72	1.74	1.79	1.59	0.212	ns
13R	私の生きがいは子育てと別である	1.45	1.47	1.39	1.41	1.50	0.251	ns
14	子どもを虐待しているのではないかとと思う	1.46	1.50	1.42	1.52	1.29	0.342	ns
15	とくに理由はないが子どものことがとても気になる	1.63	1.60	1.59	1.72	1.47	0.160	ns
16	何かという子どものことに目がいってしまい気疲れする	1.33	1.40	1.22	1.37	1.21	0.124	ns
17R	とても幸せな気分ですごしている	0.79	0.77	0.74	0.88	0.84	0.144	ns
18	何とも言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	1.15	1.11	1.06	1.27	1.16	0.125	ns
19	気が滅入ることがある	1.52	1.49	1.51	1.57	1.52	0.835	ns
20R	楽天的でよくよ考えない方だと思う	1.23	1.24	1.18	1.27	1.26	0.736	ns
21	何事も敏感に感じすぎてしまう方だと思う	1.58	1.61	1.50	1.61	1.53	0.334	ns
22	とても心配性であれこれ気に病むことがある	1.59	1.68	1.50	1.63	1.47	0.106	ns
23	人とつきあうよりも一人で何かをしている方が好きである	1.45	1.47	1.43	1.41	1.47	0.867	ns
24R	人づき合いが好きな方である	1.05	1.03	1.10	1.01	1.09	0.738	ns
25	不安や恐怖におそわれることがある	1.09	1.01	1.07	1.23	1.00	0.039	*
26	いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.86	0.78	0.84	1.00	0.78	0.037	*
27	イライラすることがある	2.03	2.05	1.97	2.07	1.98	0.593	ns
28	ひどく疲れやすいと思う	1.69	1.74	1.61	1.72	1.71	0.476	ns
29	身体の調子が悪いと思う	1.24	1.28	1.15	1.26	1.17	0.418	ns
平均得点		1.35	1.36	1.32	1.41	1.29	0.279	ns

R: 逆転項目, ***: p<0.001で有意差あり, **: p<0.01で有意差あり, *: p<0.05で有意差あり, ns: 有意差なし

点を比較すると, 自営業の平均得点が1.29点と最も低く, 次いで常勤の1.32点, 専業主婦の1.36点, そして非常勤の1.41点であった。これら4群の平均得点については, 有意差は認められなかった。

しかし, 表5からわかるように, 母親の就労形態別

に29項目の子育て不安平均得点をみると, 29項目中4項目に有意差が認められた。「(7)私ひとりで子どもを育てている」という項目については, 0.1%以下の危険率で就労形態間に有意差があった。常勤が0.72点と最も低く, 次いで自営業の0.74点, 専業主婦

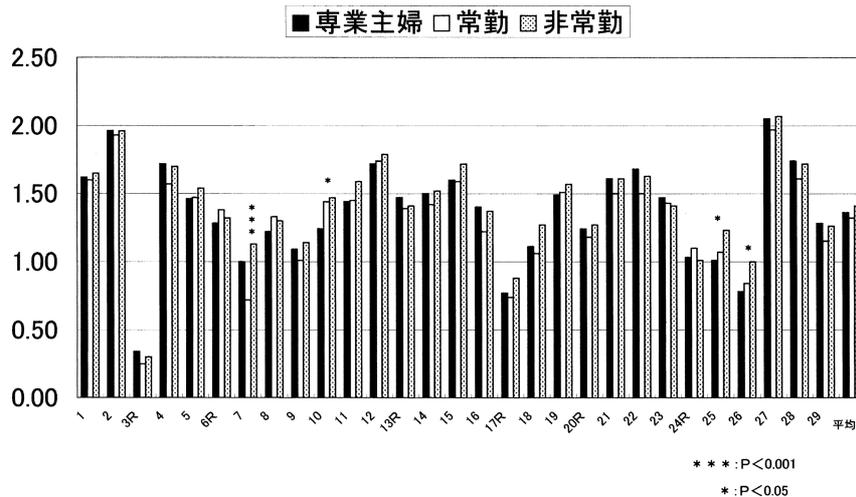


図7 就労別子育て不安得点

の1.00点で、非常勤は1.13点と最も得点が高かった。また「(10)自分のやりたいことができなくあせる」、 「(25)不安や恐怖におそわれることがある」さらに「(26)いともたってもいられないほど落ちつかないことがある」という項目については、5%以下の危険率で就労形態間に有意差が認められた。(10)の項目については、自営業が1.22点と最も低く、次いで専業主婦の1.24点、常勤の1.44点、そして非常勤は1.47点と最も高かった。(25)の項目も同様に、自営業が1.00点と最も低く、次に専業主婦の1.01点、常勤の1.07点、そして非常勤の1.23点であった。また(26)の項目については、自営業と専業主婦が0.78点と低く、次いで常勤の0.84点で、非常勤は1.00点と最も高かった。4項目とも非常勤の得点が高くなっていた。

4-1-2) 就労形態別に有意差のある項目の子育て不安平均得点の多重比較

さらに、これらの項目について、就労形態間の多重比較を行うと表6のようになった。

「(7)私ひとり子どもを育てている」という項目については、不安得点の最も高い非常勤は常勤と自営業との間に有意差が認められた。さらに、次に不安得点の高い専業主婦は常勤と自営業の間に有意差が認められた。しかし、専業主婦と常勤の間に有意差は認められなかった。また、常勤と自営業の間にも有意差は認められなかった。したがって、就労形態間の関係は、非常勤・専業主婦>常勤・自営業と表すことができる。また「(10)自分のやりたいことができなくあせる」という項目については、不安得点の最も高い非常勤は専業主婦と自営業の間に有意差が認められた。次に不安得点の高い専業主婦は常勤との間にも有意差が認められた。しかし、非

常勤と常勤の間には有意差は認められなかった。また、専業主婦と自営業の間にも有意差は認められなかった。就労形態間の関係は、非常勤・常勤>専業主婦・自営業と表すことができる。

さらに「(25)不安や恐怖におそわれることがある」や「(26)いともたってもいられないほど落ちつかないことがある」という項目については、不安得点の最も高い非常勤は専業主婦や常勤や自営業との間に有意差が認められた。しかし、常勤と専業主婦さらに専業主婦と自営業の間には有意差は認められなかった。したがって、就労形態間の関係は、非常勤>常勤・専業主婦・自営業と表すことができる。

4-2) 子育て不安の構成要素

子育て不安の構成要素について検討するために、母親の就労形態別に専業主婦群、常勤群、そして非常勤群に分類した。自営業については対象が少ないために除いた。3群ごとに29の子育て不安項目について主因子法による因子分析を行った。回転はバリマック回転法を用いた。固有値が1.000以上の因子を抽出した結果は、専業主婦群については表7に、常勤群については表8に、そして非常勤群については表9に示した。なお、因子は第3因子まで取り上げて検討した。

専業主婦群では7因子が抽出された。表7に示したように、5項目より構成された第1因子は子育て負担感、5項目より構成された第2因子は子育て困難感さらに4項目より構成された第3因子は不安・抑うつ感と命名した。

常勤群では8因子が抽出された。表8に示したように、第1因子は不安・抑うつ感(7項目)、第2因子は子育て困難感(6項目)さらに第3因子は子育て負担感(4項目)と命名した。

表6 母親の就労形態別子育て不安得点一元配置分散分析結果の多重比較 (LSD)

(7) 私ひとり子どもを育てていると思う***					(10) 自分のやりたいことができなくてあせる*				
	専業主婦	常勤	非常勤	自営業		専業主婦	常勤	非常勤	自営業
専業主婦					専業主婦				
常勤	0.001**				常勤	0.010*			
非常勤	0.121	0.000***			非常勤	0.003**	0.689		
自営業	0.042*	0.862	0.003**		自営業	0.930	0.072	0.039*	

(25) 不安や恐怖におそわれることがある*					(26) いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある*				
	専業主婦	常勤	非常勤	自営業		専業主婦	常勤	非常勤	自営業
専業主婦					専業主婦				
常勤	0.432				常勤	0.389			
非常勤	0.003**	0.036*			非常勤	0.003**	0.036*		
自営業	0.900	0.521	0.039*		自営業	0.979	0.552	0.044*	

***: P<0.01で有意差あり, **: P<0.05で有意差あり, ns: 有意差なし

表7 専業主婦の母親の子育て不安項目の因子分析結果

因子 No.	1	2	3
寄与率	10.336	8.665	8.489
累計寄与率 (%)	10.336	19.001	27.490
因子軸名	子育て負担感	子育て困難感	不安・抑うつ感
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.775	0.191	0.174
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	0.692	0.140	0.228
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.603	0.168	0.283
4 子どもことがわずらわしくてイライラすることがある	0.598	0.146	0.115
7 私ひとり子どもを育てているのだと思う	0.451	0.051	-0.066
1 何となく子育てに自信がもてないと思う	0.261	0.749	0.009
5 子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	0.214	0.688	0.260
2 子育てについていろいろ心配なことがある	0.177	0.625	0.118
16 何かというと子どものことに目がいってしまい気疲れする	0.310	0.464	0.091
15 とくに理由はないが子どものことがとても気になる	-0.042	0.404	0.179
25 不安や恐怖におそわれることがある	0.092	0.114	0.822
26 いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.195	0.138	0.685
18 何とも言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.273	0.164	0.592
19 気が減入ることがある	0.283	0.296	0.540

n=217 R: 逆転項目

非常勤群についても常勤群と同様に 8 因子が抽出された。表9に示したように、第1因子は不安・抑うつ感(7項目)、第2因子は子育て困難感(5項目)さらに第3因子は子育て負担感(4項目)と命名した。

以上のように常勤と非常勤の因子については、同じような現れ方をした。すなわち、第1因子は不安・抑うつ感、第2因子は子育て困難感そして第3因子は子育て負担感であった。しかし、専業主婦については因子の現れ方が異なっていた。常勤や非常勤では第3因子として現れていた子育て負担感が第1因子として現れていた。また常勤や非常勤では第1因子として現れていた不安・抑うつ感は第3因子として現れていた。

5. 子育て不安と母親を取り巻く環境等の関連性

子育て不安の高い群、中間群、低い群の3群と、母親の属性に関する項目や子育て環境に関する項目そして子育て観に関する項目の分割表を作成し、カイ2乗検定を行うことによって両者の関連性を検討した。さらに、母親の就労形態別にも子育て不安3群と母親の属性、子育て環境そして子育て観に関する項目の分割表を作成し、カイ2乗検定を行った。

5-1. 母親の属性と子育て不安(表10)

5-1-1) 母親・父親・子どもの年齢階層と子育て不安

表10に示したように、母親全体については母親の

表8 常勤の母親の子育て不安項目の因子分析結果

因子 No.	1	2	3
寄与率	11.524	11.325	7.902
累計寄与率 (%)	11.524	22.849	30.751
因子軸名	不安・抑うつ感	子育て困難感	子育て負担感
25 不安や恐怖におそわれることがある	0.756	0.066	0.069
26 いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.696	0.218	0.132
22 とても心配性であれこれ気に病むことがある	0.585	0.346	-0.020
19 気が減入ることがある	0.542	0.313	0.356
18 何とも言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.539	0.069	0.319
21 何事も敏感に感じすぎてしまう方だと思う	0.477	0.218	-0.113
5 子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	0.409	0.540	0.160
1 何となく子育てに自信がもてないように思う	0.114	0.679	0.182
2 子育てについていろいろ心配なことがある	0.303	0.643	0.115
11 母親として不適格だと思う	0.095	0.556	0.226
14 子どもを虐待しているのではないかとと思う	0.175	0.526	0.187
4 子どものことがわずらわしくてイライラする	0.212	0.492	0.379
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	0.108	0.207	0.721
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.075	0.289	0.571
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.010	0.346	0.562
16 何かというと子どものことに目がいってしまい気疲れする	0.278	0.244	0.406

n=196

表9 非常勤の母親の子育て不安項目の因子分析結果

因子 No.	1	2	3
寄与率	10.865	8.929	8.210
累計寄与率 (%)	10.865	19.795	28.005
因子軸名	不安・抑うつ感	子育て困難感	子育て負担感
25 不安や恐怖におそわれることがある	0.706	0.233	0.260
21 何事も敏感に感じすぎてしまう方だと思う	0.703	0.127	-0.045
22 とても心配性であれこれ気に病むことがある	0.691	0.178	0.111
26 いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.603	0.211	0.177
19 気が減入ることがある	0.505	0.238	0.310
18 何とも言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.472	0.224	0.383
20R 楽天的でよくよ考えない方だと思う	0.425	0.233	0.106
5 子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	0.196	0.679	0.156
1 何となく子育てに自信がもてないように思う	0.224	0.647	0.212
2 子育てについていろいろ心配なことがある	0.247	0.612	0.142
16 何かというと子どものことに目がいってしまい気疲れする	0.183	0.519	0.170
15 とくに理由はないが子どものことがとても気になる	0.210	0.511	-0.090
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.154	0.180	0.616
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.068	0.221	0.603
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	0.089	0.289	0.596
7 私ひとりで子どもを育てているのだと思う	0.094	-0.131	0.532
17R とても幸せな気分ですごくしている	0.062	0.090	0.467

n=191 R: 逆転項目

表10 母親の就労形態別にみた母親の属性と子育て不安の関連性

属性	子育て不安程度			子育て不安程度(専業主婦)			子育て不安程度(常勤)			子育て不安程度(非常勤)		
	人数	漸近有意確率	有意差	人数	漸近有意確率	有意差	人数	漸近有意確率	有意差	人数	漸近有意確率	有意差
母親の年齢階層	692	0.528	ns	217	0.597	ns	196	0.123	ns	191	0.192	ns
父親の年齢階層	612	0.298	ns	196	0.074	ns	177	0.014	*	163	0.688	ns
子どもの年齢階層	692	0.453	ns	217	0.165	ns	196	0.108	ns	191	0.896	ns
子どもの人数	691	0.060	ns	217	0.015	*	196	0.668	ns	191	0.953	ns
家族の人数	690	0.038	*	216	0.001	**	196	0.645	ns	191	0.207	ns
母親の就労形態	686	0.289	ns									
母親が子どもの時の母親の就労形態	680	0.364	ns	213	0.529	ns	193	0.039	*	188	0.215	ns
母親の最終学歴	690	0.080	ns	216	0.854	ns	195	0.159	ns	191	0.218	ns
家族形態	649	0.922	ns	210	0.523	ns	179	0.203	ns	191	0.477	ns
父方祖父母との距離	651	0.014	*	217	0.044	*	196	0.036	*	178	0.588	ns
母方祖父母との距離	680	0.568	ns	216	0.190	ns	196	0.190	ns	191	0.893	ns
居住年数	678	0.623	ns	211	0.239	ns	193	0.511	ns	186	0.813	ns
居住形態	690	0.951	ns	217	0.160	ns	195	0.853	ns	190	0.012	*

*** : P<0.001で有意差あり, ** : P<0.01で有意差あり, * P<0.05で有意差あり, ns:有意差なし

年齢階層, 父親の年齢階層および子どもの年齢階層と子育て不安程度には関連性は認められなかった。母親の就労形態別にみると, 母親が常勤の場合にのみ, 父親の年齢階層との間に5%以下の危険率で有意差が認められた。父親の年齢階層が低い方が子育て不安が低かった。

5-1-2) 子どもの人数・家族の人数と子育て不安

母親全体でみた場合は, 子どもの人数と子育て不安程度との間には関連性がなかった。しかし, 母親が専業主婦の場合には5%以下の危険率で有意差が認められ, 人数が多くなるほど子育て不安が高かった。

母親全体でみた場合, 家族の人数と子育て不安程度との間には5%以下の危険率で有意差が認められた。家族の人数が多くなるほど子育て不安が高かった。しかし, 常勤や非常勤の場合には関連性はなく, 専業主婦の場合のみ1%以下の危険率で有意差が認められた。

5-1-3) 母親の就労形態等と子育て不安

母親全体でみた場合, 母親の就労形態, 母親が子どもの時の母親の就労形態, さらに母親の最終学歴と, 子育て不安程度との間には関連性はみられなかった。しかし, 常勤の場合については, 母親が子どもの時の母親の就労形態が常勤であった場合は子育て不安が高く, 母親がいわゆるM字型労働であった場合は子育て不安が低くなっており, 5%以下の危険率で有意差があった。

5-1-4) 家族形態等と子育て不安

母親全体でみた場合, 家族形態, 居住年数さらに居住形態と, 子育て不安程度との間には関連性はなかった。しかし, 父方祖父母と距離との間には5%以下の危険率で有意差が認められた。すなわち父方祖父母との距離が離れている場合は子育て不安

が高くなっていた。しかし, 非常勤の場合には父方祖父母の距離と子育て不安の関連性はなかった。母方祖父母の距離については, いずれも子育て不安との関連性は認められなかった。

また, 居住形態については, 非常勤の場合は5%以下の危険率で有意差が認められ, 集合住宅居住者の方が一戸建住宅居住者より子育て不安が低かった。

5-2 子育て環境と子育て不安(表11)

5-2-1) 近所づきあい・友人づきあいと子育て不安

表11に示したように, 母親全体でみると, 近所づきあいを頻繁にしている母親ほど子育て不安が低く, 1%以下の危険率で有意差が認められた。しかし, 就労形態別にみると, 特に関連性はみられなかった。

また, 友人とのつきあいを頻繁にしている母親ほど子育て不安が低く, 0.1%以下の危険率で有意差が認められた。就労形態別にみても有意差が認められた。すなわち, 常勤と非常勤については5%以下の危険率で, 専業主婦の場合は0.1%以下の危険率で有意差があった。

5-2-2) 夫の子育て参加・夫の精神的支えと子育て不安

夫の子育て参加については, 全体では1%以下の危険率で有意差があり, 夫の子育て参加が多い方が子育て不安が低かった。しかし, 就労形態別には特に有意差は認められなかった。

夫の精神的支えについては, 母親全体では0.1%以下の危険率で有意差が認められ, 子育て不安との関連性が高かった。しかし, 就労形態別にみると, 専業主婦や常勤には関連性がなく, 非常勤のみ1%以下の危険率で有意差があった。非常勤については夫の精神的支えがあるほど子育て不安が低かった。

5-2-3) 子育ての相談相手と子育て不安

母親全体については, 子育てに関して母親自身の

表11 母親の就労形態別にみた子育て環境と子育て不安の関連性

子育て環境	子育て不安			子育て不安(専業主婦)			子育て不安(常勤)			子育て不安(非常勤)		
	人数	漸近有意 確立	有意差	人数	漸近有意 確立	有意差	人数	漸近有意 確立	有意差	人数	漸近有意 確立	有意差
近所とのつきあい	692	0.006	**	217	0.101	ns	196	0.982	ns	191	0.159	ns
友人とのつきあい	692	0.000	***	217	0.000	***	196	0.019	*	191	0.024	*
夫の子育て参加	692	0.002	**	217	0.197	ns	196	0.272	ns	191	0.154	ns
夫の精神的支え	686	0.000	***	214	0.193	ns	194	0.147	ns	190	0.009	**
相談相手												
夫	692	0.019	*	217	0.856	ns	196	0.137	ns	191	0.282	ns
自分の父母	692	0.000	***	217	0.006	**	196	0.037	*	191	0.219	ns
夫の父母	692	0.000	***	217	0.103	ns	196	0.063	ns	191	0.087	ns
自分のきょうだい	692	0.238	ns	217	0.556	ns	196	0.702	ns	191	0.067	ns
夫のきょうだい	692	0.202	ns	217	0.867	ns	196	0.205	ns	191	0.815	ns
近所の人・知人	692	0.049	*	217	0.563	ns	196	0.121	ns	191	0.440	ns
友人	692	0.001	**	217	0.032	*	196	0.196	ns	191	0.256	ns
専門機関	692	0.324	ns	217	0.460	ns	196	0.795	ns	191	0.512	ns
かかりつけの医者	692	0.088	ns	217	0.374	ns	196	0.096	ns	191	0.062	ns
保育園・学校等の先生	692	0.004	**	217	0.073	ns	196	0.649	ns	191	0.034	*
いない	692	0.000	***	217	0.067	ns	196	0.031	*	191	0.075	ns
情報源												
夫	692	0.003	**	217	0.858	ns	196	0.020	*	191	0.015	**
自分の父母	692	0.015	*	217	0.273	ns	196	0.064	ns	191	0.845	*
夫の父母	692	0.119	ns	217	0.658	ns	196	0.140	ns	191	0.629	ns
自分のきょうだい	692	0.996	ns	217	0.878	ns	196	0.424	ns	191	0.443	ns
夫のきょうだい	692	0.439	ns	217	0.866	ns	196	0.404	ns	191	0.170	ns
近所の人・知人	692	0.328	ns	217	0.794	ns	196	0.592	ns	191	0.328	ns
友人	692	0.002	**	217	0.057	ns	196	0.043	*	191	0.605	**
専門機関	692	0.570	ns	217	0.074	ns	196	0.131	ns	191	0.326	ns
かかりつけの医者	692	0.254	ns	217	0.100	ns	196	0.655	ns	191	0.785	ns
保育園・学校等の先生	692	0.027	*	217	0.533	ns	196	0.543	ns	191	0.059	*
育児書	692	0.821	ns	217	0.926	ns	196	0.482	ns	191	0.447	ns
テレビ等	692	0.526	ns	217	0.980	ns	196	0.365	ns	191	0.808	ns
子育て												
サークル												
親子クラブ	692	0.408	ns	217	0.028	*	196	0.610	ns	191	0.053	ns
児童館等	692	0.863	ns	217	0.815	ns	196	0.647	ns	191	0.565	ns
母親クラブ	692	0.463	ns	217	0.634	ns	196	一定		191	0.504	ns
子育て広場	692	0.578	ns	217	0.877	ns	196	0.331	ns	191	0.437	ns
地域の子ども活動	692	0.851	ns	217	0.984	ns	196	0.036	*	191	0.144	ns
子ども劇場	692	0.171	ns	217	0.253	ns	196	0.445	ns	191	0.737	ns
地域子育て支援センターのサークル	629	0.317	ns	217	0.126	ns	196	0.647	ns	191	0.277	ns
参加していない	629	0.797	ns	217	0.585	ns	196	0.185	ns	191	0.037	*

***P<0.001で有意差あり, **P<0.01で有意差あり, *P<0.05で有意差あり, ns有意差なし

父母や夫の父母によく相談する母親ほど子育て不安が低く、いずれも0.1%以下の危険率で有意差が認められた。しかし、就労形態別にみると、夫の父母については関連性はみられなかった。自分の父母の場合は、専業主婦は1%以下の危険率で、また常勤の場合は5%以下の危険率で有意差が認められた。しかし、非常勤については関連性が認められなかった。

友人や保育所・幼稚園の先生によく相談する母親も子育て不安が低く、1%以下の危険率で有意差が認められた。就労形態別にみると、友人については、専業主婦のみに5%以下の危険率で有意差があった。保育所・幼稚園の先生については、非常勤にのみ5%以下の危険率で有意差が認められた。

夫や近所の人・知人によく相談する母親も子育て不安が低く、5%以下の危険率で有意差があった。しかし、就労形態別にみると、いずれも関連性は認められなかった。また、相談者の有無と子育て不安は非常に高い関連性があり、0.1%以下の危険率で有意差が認められた。子育て不安の高い母親は、子育て不安の低い母親に比べ、子育ての相談をする人がいないと答えた母親が多くなっていった。ただし、就労形態別では、常勤にのみ5%以下の危険率で有意

差があり、関連性が認められた。

5-2-4) 子育ての知識・情報源と子育て不安

子育ての知識・情報源との関連性については、夫や友人をあげている母親が子育て不安が低く、いずれも1%以下の危険率で有意差があった。就労形態別では、非常勤は1%以下の危険率で、常勤は5%以下の危険率で有意差が認められたが、専業主婦については関連性がなかった。

また、自分の父母や保育所・幼稚園の先生をあげている母親も子育て不安が低く、5%以下の危険率で有意差が認められた。就労形態別にみると、いずれも、非常勤にのみ5%以下の危険率で有意差が認められた。

5-2-5) 子育てサークルの参加と子育て不安

母親全体では、子育てサークル・グループの参加状況と子育て不安との関連性は認められなかった。しかし就労形態別にみると、親子クラブについては、専業主婦は5%以下の危険率で有意差があり、親子クラブに参加している方が子育て不安が低かった。さらに、地域の子ども活動については、常勤に

5%以下の危険率で有意差が認められた。また、子育てサークルに参加していない母親については、非常勤のみ5%以下の危険率で有意差があり、子育てサークルに参加していない母親ほど子育て不安が高かった。

5-3. 子育て観と子育て不安(表12)

表12に示したように、3歳児神話の考え方については、母親全体では子育て不安との関連性はみられなかった。しかし、非常勤については、1%以下の危険率で有意差が認められ、3歳児神話の考え方に同感しない母親の方が子育て不安が低かった。

性別役割分業意識については、同感していない人ほど子育て不安が低くなると予測していたが、同感している割合が多かった専業主婦の方が子育て不安が低く、5%以下の危険率で有意差が認められた。しかし、常勤・非常勤ではいずれも有意差は認められなかった。

なお、子育て協働意識と子育て不安との関連は全く認められなかった。

考 察

1. 就労形態と子育て不安の関連性

横浜市において乳幼児をもつ母親を対象に調査を行った牧野⁸⁾は、育児不安の程度については、専業主婦の方が有識者よりやや高い傾向にあるが、統計的に有意な差は認められなかったと指摘している。また、横浜市の乳幼児をもつ母親に対して調査を実施した佐々木¹³⁾は、就労をしている母親より専業主婦の方が子育てに苦痛を感じやすく、不安に陥りやすいことを明らかにしている。

本研究では、専業主婦については、常勤の母親より子育て不安得点が高く同様の結果になった。しかし、専業主婦は非常勤の母親より子育て不安得点は低くなっていた。ただし、就労形態別にみた子育て不安得点については統計的な有意差は認められなかった。そこで、有意差が認められた子育て不安項目について子育て不安と就労形態との関連性について検討していきたい。なお、自営業については人数が少なかったことから、自営業を除いた専業主婦、

常勤および非常勤を中心に考察をすすめたい。

29の子育て不安項目中、就労形態間に有意差が認められた項目は以下の通りである。「(7)私ひとりで子どもを育てていると思う」(1%以下の危険率)、「(10)自分のやりたいことができなくてあせる」(5%以下の危険率)、「(25)不安や恐怖におそわれることがある」(5%以下の危険率)および「(26)いてもたってもいられないほど落ちつかない」(5%以下の危険率)の4項目であった。

また、この4項目の多重比較結果から、各項目の就労形態の関係は以下ようになった。(7)項目の就労形態の関係は、非常勤・専業主婦>常勤であった。したがって非常勤の母親と専業主婦は、常勤の母親と比較して、一人で子育てをしていると推測できる。また(10)項目の就労形態の関係は、非常勤・常勤>専業主婦であった。したがって非常勤の母親と常勤の母親は、専業主婦の母親と比較して、自分のことができなとあせていることが推察される。さらに、(25)と(26)の項目の就労形態の関係は、非常勤>専業主婦・常勤であった。したがって非常勤の母親は、専業主婦と常勤の母親と比較して、不安や恐怖におそわれることがあると思うことが多く、いてもたっても落ちつかないと思うことが多いことが推測される。以上のように、統計的には子育て不安と就労形態との間には有意差は認められなかったが、子育て不安項目別にみると有意差のある項目があることがわかった。さらに、就労形態別に有意差のある項目についても、どの就労形態との間に有意差があるか項目によって異なることが確認できた。

また、就労形態別に子育て不安の因子分析を行った結果、常勤と非常勤と、すなわち就労している母親の子育て不安構造と就労していない専業主婦の不安構造が異なっていることが明らかになった。すなわち、就労している母親の子育て不安の第1因子は「不安・抑うつ感」、第2因子は「子育て困難感」、第3因子は「子育て負担感」であった。また、専業主婦の子育て不安の第1因子は「子育て負担感」、第2因子は「子育て困難感」、第3因子は「不安・抑うつ感」であった。第1因子と第3因子が逆転してお

表12 母親の就労別にみた母親の子育て観と子育て不安の関連性

子育て観	子育て不安			子育て不安(専業主婦)			子育て不安(常勤)			子育て不安(非常勤)		
	人数	漸近有意 確率	有意差	人数	漸近有意 確率	有意差	人数	漸近有意 確率	有意差	人数	漸近有意 確率	有意差
3歳児神話の考え方	688	0.618	ns	216	0.692	ns	195	0.558	ns	189	0.003	**
性別役割分業意識	691	0.012	*	216	0.068	ns	196	0.707	ns	191	0.060	ns
子育てに対する夫婦協働意識	690	0.374	ns	216	0.213	ns	195	0.828	ns	191	0.053	ns

** : P<0.01で有意差あり, * : P<0.05で有意差あり, ns:有意差なし

り、働く母親と専業主婦は異なった子育て不安構造を示していた。そこで、次に、前述した就労形態別に有意差が認められた4つの子育て不安項目が、どのような因子として現れているのか検討をすすめたい。

2. 就労形態別にみた子育て不安構造と就労形態間に有意差のある子育て不安

「(7) 私ひとりで子どもを育てているのだと思う」については、非常勤と専業主婦では、「子育て負担感」因子の中に現れていた。しかし、常勤については、この項目は3つの因子の中には含まれていなかった。全く別の第7因子の中に現れていた。「(10) 自分のやりたいことができなくてあせる」については、非常勤、常勤そして専業主婦とも「子育て負担感」因子の中に現れていた。また「(25) 不安や恐怖におそわれることがある」と「(26) いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある」については、非常勤、常勤そして専業主婦とも「不安・抑うつ感」因子として現れていた。

以上のことから、就労形態別にみた子育て不安は、「子育て負担感」因子と「不安・抑うつ感」因子との間に特に違いがあると推測することができる。先に述べたことあわせ考えると、「子育て負担感」に関しては、(7)項目のように非常勤と専業主婦に高い「子育て負担感」と、(10)項目のように非常勤と常勤に高い「子育て負担感」の2つのタイプがあることが推測される。前者は「子育て責任重圧感」からくる子育て負担感、後者は「ゆとりのないあせり感」からくる子育て負担感であるといえる。したがって、非常勤や専業主婦は「子育て責任重圧感」が常勤よりも高いことが推察される。また非常勤や常勤など就労している母親は専業主婦に比べて「ゆとりのないあせり感」が高いことが推察される。さらに、非常勤の母親は常勤や専業主婦に比べて、「不安・抑うつ感」が高いことが推察される。

育児不安と職業生活関連項目との関連を検討した谷口¹⁴⁾は、職業生活における精神的なストレスが少ない母親ほど育児不安が低いことを明らかにした。さらに精神的なストレスが高いと思われる非常勤の母親は、常勤で働く母親の方よりも育児不安が高いことを指摘した。本研究においても、非常勤の母親は「子育て責任重圧感」や「不安・抑うつ感」など精神的なストレスが高いので、常勤の母親に比べて子育て不安が高くなったと思われる。

では、なぜこのような就労形態別によって子育て不安の現れ方が異なるのであろうか。そこで、次に就労形態別にみた子育て不安の程度と母親の属性、

子育て環境そして子育て観との関連性について検討していきたい。

3. 就労形態と子育て不安の関連性

3-1. 就労形態別にみた子育て不安と母親の属性

表10に示したように、子どもの人数と家族の人数と子育て不安との関連性が認められたのは、専業主婦のみであった。子どもの人数や家族の人数が少ない方が子育て不安は低くなっていた。表2に示したように、子どもの人数については就労形態間に有意差は認められなかった。しかし、家族の人数は専業主婦が有意に多かった。したがって、家族人数の多い専業主婦は、子育ての不安が高くなったと思われる。

また、表10に示したように、常勤の場合は、父親の年齢階層が低いほど子育て不安が低かった。表2に示したように、父親の年齢階層と就労形態の関連性については、母親が非常勤の場合に父親の年齢階層が低くなっていた。父親の年齢階層と子育て不安との間に関連性があるとすれば、非常勤の父親の子育て不安も低くなるはずである。しかし、非常勤の場合には、父親の年齢階層と子育て不安の間には有意差は認められなかった。したがって、常勤の場合には父親の年齢以外の異なった要因が子育て不安の軽減に作用したものと推察される。

また、表10からわかるように、専業主婦と常勤の母親については、父方祖父母との距離が近い人ほど子育て不安が低く、遠い人ほど子育て不安が高かった。表2に示したように、父方祖父母との距離と母方祖父母との距離は、母親の就労形態と非常に関連性が高かった。すなわち、常勤の母親は祖父母との距離が近く、専業主婦は祖父母との距離が遠かった。したがって、父方祖父母と距離の近い常勤の母親の子育て不安は低く、父方祖父母との距離が遠い専業主婦の子育て不安が高くなったと思われる。しかし、母方祖父母との距離と就労形態の間にも関連性があるにもかかわらず、子育て不安の間には関連性が認められなかった。前述したように、常勤の父方祖父母については、母方祖父母と比較して同一敷地内に居住している割合が高かった。また、専業主婦の父方祖父母については、母方祖父母と比べて日帰りできない距離の割合が高かった。したがって、子育て不安との関連性は父方祖父母の距離と間に強く現れたものと思われる。

さらに、表10からわかるように、非常勤の場合は、集合住宅居住者の方が子育て不安が低かった。表2に示したように、集合住宅居住者は常勤が非常勤より多かった。しかし常勤については、居住形態と子

育て不安との関連性はなかった。したがって、集合住宅居住者の子育て不安が低くなったのは、居住形態以外の要因が作用したものと推察される。

なお、常勤の母親の場合、母親が子どもの時の母親の就労形態と子育て不安と関連性が認められたが、今回の調査データからその理由を考察することができなかった。母親が子どもの時の状況を把握した上で分析をすすめる必要がある。

3-2. 就労形態別にみた子育て不安と子育て環境の関連性

表11に示したように、友人とのつきあいの頻度と子育て不安の関連性はどの就労形態にも有意差が認められた。友人とのつきあいと子育て不安の関連性が高いことは多くの研究によって実証されている。今回は、就労形態別にみても、友人とのつきあいが多いほど子育て不安が低くなることが明らかになった。

また、夫とのかかわり方が子育て不安に与える影響が大きいことについてもすでに明らかにされている。すなわち、夫の子育て参加が多いほど子育て不安が少なく、また、夫の精神的支えが多いほど子育て不安が少なくなる。しかし、就労形態別にみると専業主婦や常勤については、夫の子育て参加や夫の精神的支えの頻度と子育て不安との関連性は認められなかった。一方、表3からわかるように、非常勤は常勤や専業主婦に比べて夫の精神的支えは少ないにもかかわらず、表11に示したように子育て不安と夫の精神的支えとの間には0.1%以下の危険率で有意差が認められた。非常勤の母親の子育て不安は専業主婦や常勤と比べて高かった。夫の精神的支えが子育て不安の軽減に重要な要因となることが示唆された。

表3や図5に示したように、子育ての相談相手として自分の父母をあげている母親は多い。しかも、就労形態別には特に有意な差は認められなかった。しかし、表11からわかるように自分の父母を子育ての相談相手としてあげている専業主婦や常勤の母親の子育て不安は低くなっていた。また、専業主婦の場合は、友人とのつきあいが頻繁であることから、友人を子育ての相談相手としてあげている専業主婦の子育て不安も低くなっていた。非常勤に関しては、自分の父母や友人と子育て不安との関連性はなかったが、保育所・幼稚園の先生を相談相手としてあげている母親の子育て不安が低くなっていたことに留意したい。表3に示したように、保育所・幼稚園の先生を子育ての相談相手とあげている母親は、常勤が多く、次に非常勤になっており、就労形態別に有意差が認められた。しかし、保育所・幼稚園の先生が子育て不安の軽減に与える影響は非常勤の方が顕著であった。こ

のことについては、次の子育て知識・情報源として保育所・幼稚園の先生をあげている非常勤の母親の子育て不安が低くなっていることから推察される。

子育て知識・情報源と子育て不安の関連性については、常勤と非常勤の場合は夫や友人をあげている母親の子育て不安が低くなっていた。また、非常勤の場合は自分の父母を情報源としてあげている母親の子育て不安も低かった。非常勤の母親の子育て不安は、常勤や専業主婦と比べ高かったため、非常勤の母親の子育て不安にこれらの情報源が与える影響について重視する必要がある。

子育てサークル・グループと子育て不安との関連性については、専業主婦の場合は親子クラブの参加と関連性があり、常勤の場合は地域の子ども活動の参加と関連があった。また、常勤の場合は子育てサークル・グループに参加していない人の子育て不安が高くなっていた。表3からわかるように子育てサークル・グループの参加率は必ずしも高くない。しかし、何らかの子育てサークル・グループに参加している母親の子育て不安が低くなっていることは重要である。

3-3. 就労形態別にみた子育て不安と子育て観の関連性

就労形態別にみて、子育て不安と子育て観と関連があったのは、非常勤の母親のみであった。3歳児神話の考え方に同感しない母親の子育て不安は低かった。しかし、専業主婦や常勤の母親については、3歳児神話の考え方と子育て不安との間には関連性はなかった。3歳児神話は3歳までは母親が子育てに専念するべきだという考え方である。したがってこの考え方に賛同する母親は専業主婦が多く、賛同しない母親は常勤に多いはずである。表4に示したように、3歳児神話に同感する母親は明らかに専業主婦が多く、反対する母親は常勤の母親が多かった。したがって、専業主婦や常勤の母親については、3歳児神話の考え方や就労形態とのずれはなく、葛藤も少ないと思われる。しかし、非常勤の母親の場合は、3歳児神話の考え方に影響を受けて、仕事を中断し、その後、非常勤の就労している母親が多いと推察される。このような場合は葛藤も多く、その結果子育て不安も高くなったと思われる。

以上述べてきた就労形態別にみた子育て不安と母親の属性、子育て環境および子育て観との関連性について考察を踏まえて整理すると、図8のようになった。

ま と め

専業主婦、常勤および非常勤別に子育て不安得点と子育て不安構造を比較検討し、さらに、子育て不安に影響

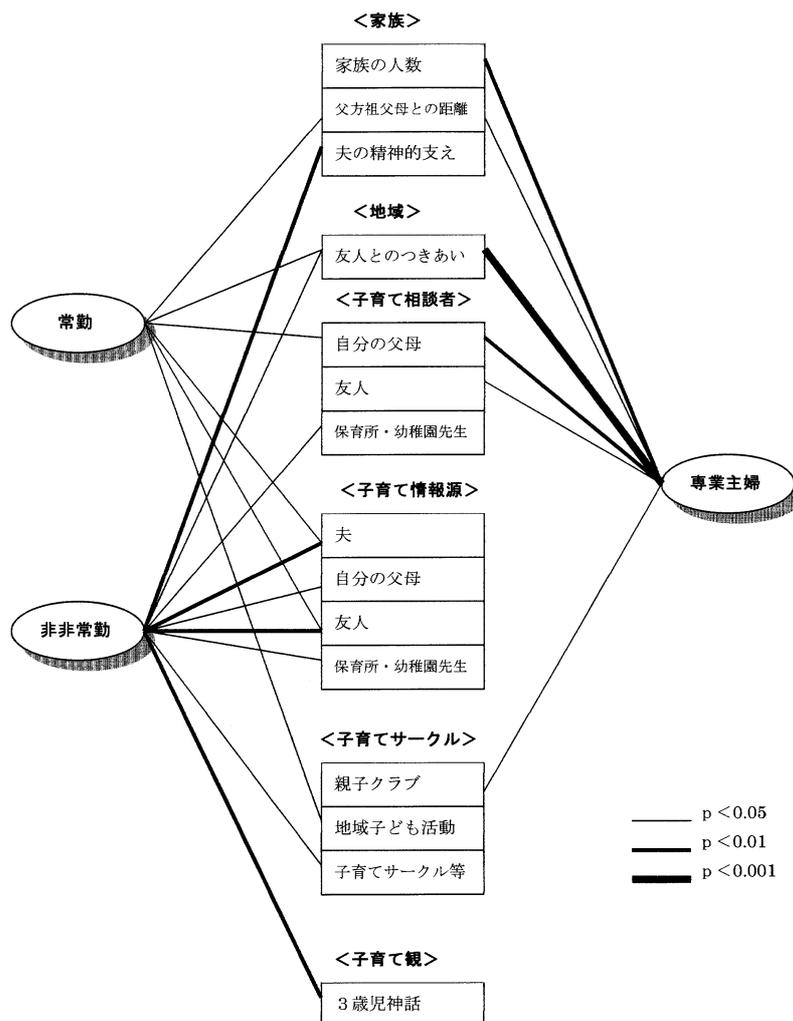


図8 就労形態別にみた母親の子育て不安要因

を与えらると思われる要因と母親の就労形態との関連性について検討した結果、以下のことが明らかになった。

1. 子育て不安得点は非常勤が最も高く、次いで専業主婦、常勤の順に低くなっていたが、統計的な有意差は認められなかった。
2. 29の子育て不安項目中、以下の4項目については就労形態間に有意差が認められた。すなわち「(7) 私ひとりで子どもを育てていると思う」、「(10) 自分のやりたいことができなくてあせる」、「(25) 不安や恐怖におそわれることがある」および「(26) いてもたってもいられないほど落ちつかない」であった。
3. 4項目の多重比較を行った結果、就労形態間の不安得点の関係は以下ようになった。(7)項目については非常勤・専業主婦>常勤、(10)項目については非常勤・常勤>専業主婦、(25)項目については非常勤>専業主婦・常勤であった。
4. 就労形態別に子育て不安の因子分析を行った結果、常勤と非常勤、すなわち就労している母親の子育て不安構造と、就労していない専業主婦の不安構造が異なっていることが明らかになった。
5. 4項目の多重比較と就労形態別子育て不安の因子分析の結果から、非常勤と専業主婦は「子育て責任重圧感」が常勤より高いこと、非常勤と常勤は「ゆとりのないあせり感」が専業主婦より高いこと、また、非常勤は「不安・抑うつ感」が常勤や非常勤に比べ高いことが明らかになった。
6. 専業主婦については、子育て不安と関連性の高い要因は、友人とのつきあい頻度であった。家族の規模や親族ネットワークのつながりも子育て不安に影響を与えていた。地域の子育てサークルである親子クラブの参加は子育て不安の軽減に重要な働きをしていると推察された。
7. 常勤の母親については、友人とのつきあい、親族ネットワークのつながり、情報源としての夫お

よび地域での子ども活動への参加頻度と、子育て不安との間に関連性があることが明らかになった。8. 非常勤の母親については、子育て不安と強い関連性があったのは、夫の精神的な支えがあること、および夫や友人から情報を得ることであった。また、3歳児神話の考え方も子育て不安に強い影響を与えていることが明らかになった。友人とのつきあいの頻度、情報源としての父母、相談者および情報源としての保育所・幼稚園の先生および子育てサークル・グループの参加頻度と、子育て不安は関連があることも明らかになった。

本研究において、子育て不安と母親の父母との関連性が認められた。母親の父母を含む親族ネットワークと子育て不安の関連性に関する研究は必ずしも多くない。また、金岡ら²⁵⁾は母親の人格特性的傾向である自己効力感と育児不安の関連性について明らかにしている。さらに、吉田ら³⁵⁾は、育児尺度を

検討するにあたって、自己強力感に加え、育児満足度や育てやすさの要因と子育て不安との関連性について検討している。したがって、今後、親族ネットワーク、自己効力感等の子育て不安要因と子育て不安との関連性を検討することが課題となってくる。

本稿を終えるにあたり、アンケート調査にご協力いただいた保育園・幼稚園の園長をはじめ職員の皆様、および保育園・幼稚園の保護者の皆様に感謝いたします。また、アンケート調査を実施するにあたり、ノートルダム清心女子大学児童学科奥山清子助教授、旭川専門学院林基子先生および旭川荘板野美佐子先生にご助言を受け賜りました。また、統計処理をするにあたり川崎医療福祉大学医療福祉学科戸守美希さんと佐々木美代さんのご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。なお、本研究は平成12年度川崎医療福祉大学総合研究の一部であり、本大学より助成を受けたことを感謝申し上げます。要旨は日本保育学会第55回大会において発表した。

文 献

- 1) 厚生省監修：厚生白書（平成10年版），初版，ぎょうせい，東京，82-107，1998。
- 2) 牧野カツコ：乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉。家庭教育研究所紀要，(3)，34-56，1982。
- 3) 庄司順一：育児不安。保険の科学，42(11)，870-874，2000。
- 4) 川井尚，庄司順一他：育児不安に関する基礎的検討。日本愛育研究所紀要，(30)，27-39，1994。
- 5) 川井尚，庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究—幼児の母親を中心に—。日本愛育研究所紀要，(31)，27-42，1995。
- 6) 川井尚，庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究Ⅱ—育児不安の本態としての育児困難感について—。日本愛育研究所紀要，(32)，29-47，1996。
- 7) 牧野カツコ：育児における〈不安〉について。家庭教育研究所紀要，(2)，41-51，1981。
- 8) 牧野カツコ：働く母親と育児不安。家庭教育研究所紀要，(4)，67-77，1983。
- 9) 牧野カツコ，中西雪夫：乳幼児をもつ母親の育児不安—父親の生活および意識との関連—。家庭教育研究所紀要，(6)，11-24，1985。
- 10) 牧野カツコ：乳幼児をもつ母親の学習活動への参加と育児不安。家庭教育研究所紀要，(9)，1-13，1987。
- 11) 牧野カツコ：〈育児不安〉の概念とその影響について再検討。家庭教育研究所紀要，(10)，23-31，1988。
- 12) 大日向雅美：育児にともなう母親の不安。小児看護，12(4)，415-420，1989。
- 13) 佐々木正美：育児不安の解消は，孤独・孤立から。こども未来，(303)，12-14，1996。
- 14) 谷口利加子：就労女性と育児不安—職業生活関連要因からの検討—。生活社会科学研究，(4)，17-29，1997。
- 15) 諏訪きぬ，戸田有一，堀内かおる編：母親の育児ストレスと保育サポート，初版，川島書店，東京，3-233，1998。
- 16) 八木成和：乳幼児をもつ母親の育児不安に関する研究—育児観と育児サポートとの関連について—。IBU 四天王寺国際仏教大学紀要，32(40)，63-76，1999。
- 17) 住田正樹，中田周作：父親の育児態度と母親の育児不安。九州大学大学院教育学研究紀要，(2)，19-38，1999。
- 18) 両角伊都子，角間陽子，草野篤子：乳幼児をもつ母親の育児不安に関わる諸要因—子ども虐待をも視野に入れて—。信州大学教育学部紀要，99，87-98，2000。
- 19) 恒次欽也，庄司順一，川井尚：いわゆる育児不安に関する調査研究(1)—「育児困難感」の規定要因に関する研究—。愛知教育大学研究報告，48，123-129，1999。
- 20) 恒次欽也，庄司順一，川井尚：いわゆる育児不安に関する調査研究(2)—最新版質問紙による「育児困難感」の規定要因に関する研究—。愛知教育大学研究報告，49，125-132，2000。
- 21) 加藤道代：育児初期の母親の養育意識・行動とサポート資源。国立婦人教育会館研究紀要，(3)，53-59，1999。

- 22) 中野洋恵：0-1歳の子どもを持つ母親の育児不安と育児情報に関する一考察．国立婦人教育会館研究紀要 (3), 61-70, 1999
- 23) 八幡裕一郎, 畑栄一他：育児不安に関する要因の検討．日本公衆衛誌, 4(7), 521-531, 1999.
- 24) 宮本政子, 船越和代, 中添和代, 牟礼役場, 渋谷小児科クリニック：乳幼児を持つ母親の育児不安の現状とその要因．香川県立医療短期大学紀要, 2, 115-200, 2000.
- 25) 金岡緑, 藤田大輔：乳幼児をもつ母親の特性的自己効力感及びソーシャルサポートと育児に関する否定的感情の関連性．厚生指標, 4(6), 22-29, 2000.
- 26) 八重樫牧子：母親クラブ活動調査からみた子育て支援に及ぼす母親クラブの役割と課題．川崎医療福祉学会誌, 1(1) 27-43, 2002.
- 27) 八重樫牧子：母親の子育て不安の程度と母親クラブ活動との関連性に関する考察．川崎医療福祉学会誌, 1(1) 45-57, 2002.
- 28) 服部祥子, 原田正文：乳幼児の心身発達と環境—大阪レポートと精神医学的視点—, 初版, 名古屋大学出版, 名古屋, 125-251, 1991.
- 29) 菅原ますみ, 北村俊則, 戸田まり, 島悟, 佐藤達哉, 向井隆代：子どもの問題行動の発達：Externalizing な問題傾向に関する生後11年間の縦断的研究から．発達心理学, 1(1), 32-45, 1999.
- 30) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究Ⅲ—育児困難感のアセスメント作成の試みに—．日本愛育研究所紀要 (33), 35-56, 1997.
- 31) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究Ⅳ—育児困難感のプロフィール評定試案—．日本子ども家庭総合研究所紀要 (34), 93-111, 1998.
- 32) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究Ⅴ—育児困難感のプロフィール評定質問紙の作成—．日本子ども家庭総合研究所紀要 (35), 109-143, 1999.
- 33) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究Ⅴ—子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究．日本子ども家庭総合研究所紀要 (35), 117-138, 2000.
- 34) 川井尚, 庄司順一他：子ども総研式・育児支援質問紙(ミレニアム版)の手引きの作成．日本子ども家庭総合研究所紀要 (37), 159-180, 2001.
- 35) 吉田弘道, 山中龍宏他：育児不安スクリーニング尺度の作成に関する研究—1・2か月児の母親用試作モデルの検討—．小児保健研究, 5(6), 697-704, 1999.
- 36) 経済企画庁国民生活局編：平成9年度国民生活選好度調査 女性のライフスタイルをめぐる国民意識—勤労, 家庭, 教育—, 初版, 大蔵印刷局, 東京, 47-48, 1998.
- 37) 八重樫牧子, 奥山清子, 林基子, 板野美佐子：母親の子育て不安と子どもの年齢との関連性に関する研究．ノートルダム清心女子大学紀要 生活経営学・児童学・食品栄養学編, 2(1), 1-13, 2003.

(平成14年10月31日受理)

A Study on Relation between Mothers' Anxiety to Raising Children and Working Situation

Makiko YAEGASHI and Takanori OGAWA

(Accepted Oct. 31, 2002)

Key words : ANXIETIES ABOUT CHILD REARING,
CHILD CARE SUPPORT, WORKING SITUATION,
FEWER NUMBER OF CHILDREN

Abstract

Due to developing urbanization, there is an increase in the nuclear family and a decrease in the number of children. As a result there is an increase in the number of mothers who have become anxious and neurotic about raising their children. In addition, more women will work out of the home and their working situations will vary. Therefore, we need to study about mothers' anxiety to raising their children based on their working situation.

This study was aimed at clarifying what kind of working situation influenced their anxiety about raising children. The subjects were 729 mothers whose children attended a nursery or a kindergarten. The method was a questionnaire investigation. We compared and discussed anxiety scores and anxiety structures among housewives, part-time working mothers and full-time working mothers about raising children. In addition, we discussed the relation between possible causes of mothers' anxiety to raising children and their working situation. The findings were as follows:

- 1 . The score of part-time working mothers' anxiety was the highest. The next was the one of housewives. The one of full-time working mothers was the lowest. However, a significant difference was not found.
- 2 . About 4 items of mothers' anxiety toward raising their children, a significant difference was found among working situations.
- 3 . As a result of factor analysis on mothers' anxiety with or without work, it showed that elements of working mothers' anxiety and non-working mothers' was different.
- 4 . Full-time working mothers and non-working housewives felt "severe responsibility and pressure" toward raising their children. Part-time working mothers and full-time ones had "restless stress." And, part-time working mothers showed strong anxiety and depression.
- 5 . A factor causing anxiety in raising children and showing a relation to anxiety in the raising of children among non-working housewives, part-time working mothers and full-time ones was found.

Correspondence to : MakikoYAEGASHI Department of Medical Social Work, Faculty of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.12, No.2, 2002 219-239)